日本鐵鋼協會記事

理事會　4月4日（水曜日）午後4時30分開會し　**出席者**　服部　漸君、河村　驍君、俵國一君、種田右八郎君、渡邊三郎君、今泉嘉一郎君、香村小錄君等にして新任服部會長、理事、編輯委員一同に對し新任の挨拶ありて協議に移れり　**協議事項**　a. 會長事務引繼に關する件（鹽田前會長欠席に付河村理事より事務詳細報告ありたり）b. 理事改選登記に關する件、c. 理事任務分擔に關する件、d. 本會秋季講演大會大阪市に於て開催に關し委員長並副委員長推薦に對し承諾の件、委員長　工學博士齋藤大吉君、副委員長　住友製鋼所常務加藤　榮君　承諾決定　e. 同上本部側準備委員推薦の件、日本鐵鋼協會第四回講演大會準備委員　理事、俵國一君、編輯委員　室井嘉治馬君、同第三回研究部會準備委員、理事　河村驍君、編輯委員　三島德七君に決定　f. 秋季講演大會準備に關し大阪側と第一打合に關する件、g. 萬國工業會議より依頼の同會議接待委員推薦の件（服部博士　今泉博士を推薦報告せり）h 入會退會承認、以上の通りにして午後7時30分閉會す

評議員會決議追補　去る2月22日評議員會に於て評議員服部博士を理事會長に推薦したるを以て其補缺として八幡製鐵所條鋼部長　景山齊君を推薦せり。

編輯委員會　4月4日（水曜日）午後5時開會　**出席者**　川上義弘君　田中清治君　室井嘉治馬君　鹽澤正一君　足立泰雄君　**協議事項**　1）秋季開催の講演大會準備委員及研究部會準備委員の推薦の件、大會準備委員　室井嘉治馬君　研究部會準備委員　三島德七君と決定　2）鐵と鋼第十四年第五號掲載原稿撰定の件　撰定論說　(I) 鈑狀鑄鐵の冷硬法に於ける化學成分の影響に就て　淺田長平君　(II) 麻留田生成に關するX線的研究　本多光太郎君　關戸信吉君　(III) 平爐に於ける熱の傳播に就て　廣瀨政次君　以上の通りにして午後7時30分閉會す

會員移動　入會者承認濟

居所或は宛名先	勤務先並職業	會員別	氏名	紹介者
牛込區南山伏町一五（電話牛込三五六七）	商工省地質調査所 所長 理學士	正	金原信泰君	服部　漸 河村　驍
日本橋區濱町二丁目十七（電話浪花七二八一）	帝國新報社	正	山野好恭君	服部　漸 河村　驍
北海道室蘭市母戀新富町社宅一〇二	日本製鋼所室蘭工場 技師ドクトルオブサイエンス	正	藤原唯義君	藤田龜太郎 川上　義弘
山口縣都濃郡下松町　日立製作所笠戸工場鑄工課		准	中野正義君	俵　國一君
和歌山縣加太町　深山重砲兵聯隊第一中隊幹部候補生	工學士	准	垣内富士夫君	田中　清治
福岡縣八幡市八幡製鐵所	製鋼部第二製鋼工場	准	根本文次郎君	稻田　穆文
福岡縣築上郡八屋町	日本鋼業株式會社理事	准	渡邊禎次郎君	永田　五郎
福岡縣小倉市許斐町淺野小倉製鋼所		准	井生茂三郎君	江口　喜一

退會承認濟

正會員 安井健次郎　小川乙吉　舟橋了助　宮崎豐作

准會員 有田耕藏

日本鐵鋼協會第十三回通常總會概況

本會の狀況を報告するに當り詳細なる速記錄の整理出來ざるを以て其要項丈を上揭し次號より漸次詳細を報告する事とす。

1. **開會場所** 東京市麴町區有樂町一ノ一　生命保險會社協會館　第一階　講堂
1. **開會時日** 昭和三年三月三十一日（土曜日）午後 2 時 30 分
1. **出席者總數** 80 餘名にして本會役員及正會員　鹽田泰介君　服部　漸君　河村　驍君　渡邊三郎君　俵國一君　今泉嘉一郎君　香村小錄君　一色虎兒君　濱田彪君　林幾太郎君　西野惠之助君　本多光太郎君　大塚榮吉君　川上義弘君　橫堀治三郎君　鵜澤新五君　梅野　實君　松下長久君　江藤捨三君　白石元治郎君　杉村伊兵衞君　石田四郎君　盧成章君　川井茂雄君　田中淸治君　竹內保資君　大同電氣製鋼所君　室井嘉治馬君　宇和川武夫君　久芳道雄君　黑田義夫君　山口貫一君　松山寬慈君　松下德二郎君　小林子之輔君　朝倉希一君　荒木　宏君　齋藤三三君　志村淸次郎君　樋口喜六君　森岡三郎君

開會之辭　（前年度に於ける內外製鐵鋼業の概況）日本鐵鋼協會會長工學博士　鹽田泰介君

是より第十三次本會通常總會を開き升例により開會の辭として昨昭和二年度の內外製鐵業の統計を通覽致しますと世界各國箇々に就ては多少產額の減少した國もありますが全體としては著敷產額の增進を見まして銑鐵の產出は約 8,480 萬噸で一昨年大正 15 年に比し 740 萬噸を增加し從來の最大記錄たる 1913 年に比し 710 萬噸を增產し戰後初めて 1913 年の記錄を著敷突破するの盛況を見たのであります、又鋼塊に就ては昨年度の產出高は約 9,890 萬噸で一昨年に比較致しますと 735 萬噸を增加し之亦從來の記錄を突破して居るのであります、之の增加の依て來る處を見ますと英國の產出額が一昨年は同國內に起つた全國的同盟罷業並にコールストライキの爲めに著敷減產を見たのでありますが昨年度は銑鐵に於て約 500 萬噸、鋼塊に於て約 550 萬噸の增產を來して居るのと獨逸國內の產業狀態が漸次恢復して同國內の消費額が增進し銑鐵並に鋼塊共に 200 萬噸以上の增產をなし其他白耳義、露西亞、ルクセンブルグ、ザール地方、日本、チエコスラバキヤ等何れも多少共產出額を增加して居るので前述の如く全體として著大なる增進を見たのであります、只米國は昨年 3 月總會の席上豫想を申しました通り一昨年度に於て飽和點に達した氣味があつて昨年度は銑鐵に於て約 300 萬噸鋼塊に於て約 400 萬噸を減產して居ります又佛蘭西は一昨年及昨年の間には差したる增減はないのであります。

各國輸出入　次に主要製鐵國たる米國、英吉利、獨逸、佛蘭西、白耳義（ルクセンブルグを含む）以上5ケ國の鐵鋼の輸出入額に就ては5國合計輸出 2,055 萬噸で一昨年に比し 280 萬餘噸を增加し5國の合計輸入量は 812 萬 6,000 噸で之亦 150 萬噸を增加して居ります、輸出量の順序は佛、白、獨、英、米の順位で輸入量差引純輸出量の順位は佛、白、獨、米、英となつて居ります

本邦鐵鋼產額　次に本邦の鐵鋼產額を申しますと未だ正確なる統計は得られないが銑鐵に於ては滿鮮及合金銑を合せ合計約 126 萬 7,000 噸で一昨年に比し 13 萬 2,000 噸を增加し鋼塊に於ては約 167 萬 3,000 噸で一昨年に比し 16 萬 7,000 噸を增加し鋼材に於ては產額約 147 萬 3,000 噸で一昨年に比し 14 萬 3,000 噸を增加して居ります

斯くの如く產出量の增進を見たのは一方には需用額の增加にもよりますが他方には鐵鋼の市況不振の爲め各工場共多量生產に依つて極力生產費の低下を計つた處の當業者の苦心努力の跡が窺はれるのであります

本邦輸入銑鐵　昨年度の本邦鐵鋼の輸入に就ては銑鐵の輸入高は關東州のものを含み合計約 47 萬 6,720 噸でありまして、一昨年に比し約 7 萬 3,000 噸を增加して居ります、之は需用の增加と相俟つて印度の輸入高が一昨年よりも約3萬噸增加し又滿州鞍山に於ける增產の結果約4萬 8,000 噸の輸入增加に依るものであります、銑鐵の價格は曩に共同販賣組合の成立以來同業者間相互の協調が出來て不合理なる競爭がなくなつた爲めに年間を通じて相場の安定を見生產者より京濱問屋への卸値は三號銑に於て 48 圓內外を持續した樣であります、只動もすれば印度の安價品の壓迫により相場の充分なる立直りは實現されなかつたのであります

本邦輸入鋼材　次に鋼材に於ては昨年度の輸入量は約 80 萬噸で前年に比し約 12 萬 3,000 噸の減少に當り從來の如く甚敷極端なる「フラクチユエーション」がなくなり不安定なる輸入狀態より轉して漸く健全なる趨勢を辿る樣になつたのは八幡製鐵所が先物値段を極めるに當り常に輸入品の價格に追從して輸入品市價よりも安値を出す事になつたので從來の思惑輸入を防ぎ輸入品に乘せらるゝの機會がなくなつた事が主なる原因とされて居る、殊に從來關稅引上問題が議に上ると忽ち思惑輸入が行はれて居たのであるが輸入商に於ても從來幾度かの苦しき經驗により昨年末に於ては之の思惑は製鐵所の先物の方に轉ぜられた爲めに輸入の激增を見ず市價の攪亂を免れた事は同所の販賣方針に負ふ處が多い樣である、鋼材の價格は年頭輸入價格稅共 92 圓を最高として段々値段は下向き殊に昨年3月には 86 圓と云ふ戰後の最低價格を實現したが年末には爲替相場の關係や歐洲大陸に於ける相場の協調により 89 圓に引返した、八幡製鐵所の先物賣出し値段は常に外國輸入品の相場より1圓乃至2圓下に置かれた爲めに輸入を防止するに効果のあつた事は前述の通りである、尙ほ本年に這入つて以來歐州大陸物は獨逸に於ける8時間制の勵行、同國の勞働爭議及本邦に於ける議會解散の結果關稅引上の停頓等に原因するものか輸入價格は著敷上進し最近八幡製鐵所先物値段も之に連れて一躍3圓引上げられ棒鋼に於て 90 圓とせられた事は當業者の窮境を稍々緩和するの材料となるが果して歐州大陸物の

この相場が永續するや否やは吾人の豫測を免ざる處である

其他昨年度の統計上著敷目立つた事項は一昨年の鋼塊鋼片輸入額が3萬 3,548噸であつたのに對し昨年は8萬8,150噸に增加した事並に屑鐵の輸入高が一昨年は8萬155噸であつたのが昨年は一躍22萬 8,204噸に增加したことであります

同業者の協定事項 最後に內外鐵鋼同業者間の協定事項に就て少しく申述べますと 1,926年10月歐州大陸の主要製產國乃ち獨逸、佛蘭西、白耳義、ルクセンブルグ、ザール間に成立したる歐州鐵鋼トラストは大體に於て順調に經過して居るのであるが其後の變化を擧ぐれば割當高に對する超過生產に課する科金は獨逸國內市場供給の場合に限り1噸に付4弗より2弗に減額せられ更に 1,927年の「ルクセンブルグ」會議に於て1弗に減額された、之は獨乙が聯合成立當時其成立を促進する爲めに多大の讓步をなして自國の生產割當額を實際生產力以下に計算した爲めに同國の工業の復興と共に生產は著敷割當額を超過する事となり爲めに聯合成立以來 6ヶ月間に獨逸の支拂ひたる科金は實に 390萬 6,440 弗の多きに上り其大部分は佛國の所得となり同國の輸出補助金に充當さるゝに至つた、

其處で獨逸は科金の中國內市場供給に屬する 75%に限り之を2弗に減額し殘餘の輸出額に對しては從前の定額4弗を支拂ふ可き事且つ其代り海外輸出高は將來增加せざる可き事を提案し加盟國は之を承認した處其後更に獨逸國內消費に對しては科金を1弗に減額する事を迫り若し承諾を得ずんば聯合を脫退するの氣勢を示し遂に加盟國の承認を經たものであるが一方から云ふと獨逸は聯合の成立上多大の犧牲を拂つたものと見る事が出來る、又聯合の目的達成の爲めに販賣機關を設置する事に就ては未だ具體的には纒まらざるも半成品及ガーダーに對して販賣機關を設置することに就ては主義として同意する事に一致した樣である

英國に於ける鐵鋼割戾協定 更に注目す可き海外に於ける協定の一つは英國に於ける鐵鋼割戾協定で英國は歐洲大陸の鐵鋼の壓迫を受け輸出不振輸入增加を來たしたるを以て英國內の消費者を鼓舞し英國勞働者の生產する英國原料品を購買せしめむとする目的を以て 1,927年9月1日英國製鋼業者 28社の間に協定が成立し「ジョイスト」に對しては1噸に付7志6片、普通の品質の鋼板並に「セクション」に對しては5志の割戾を行ふことを協定したもので之に依て製鋼業者並に消費者兩者の共榮共存を主旨とし以て國內の生產を增加し全能力の活動を發揮せんとして居るのであるが之に對しては消費者や世間からも色々毀譽褒貶が行はれて居る樣であるが其實績に就ては之を將來に待たなければならぬのであります

本邦に於ける同業協調 本邦に於ける鐵鋼同業者の協調と云ふ方面に就ては銑鐵共同組合の成立及官民條鋼分野の協定に就ては昨年3月總會に於て報告せる通りであるが其後昨年11月に至り釜石鑛山、日本鋼管、富士製鋼三會社よりなる關東鋼材販賣組合が成立し民間の分野に屬する丸鋼の共同販賣が行はるるに至り尙ほ之に引繼いで關西にては神戶製鋼と大阪製鐵とが每月先物の賣出値段を協議決定する事の協定が成立し已に實行中の由である斯くの如くして我國の製鐵同業者間に段々と協調が行は

れ漸次經營上の合理化が進みつつある事は邦家の爲め慶賀に堪えざる次第である　（以上）

1. **議事概要**　會長鹽田泰介君開會の挨拶を終いて議長席に移り次の議案に付き詳細の說明及び審議されたり。

a 昭和二年度會務報告　b 昭和二年度收支決算報告　c 昭和三年度收支豫算の件

以上異議なく可決す

議　　案

昭和貳年度會務報告

1 集　會	通常總會	1 回	臨時總會	1 回
	理事會	12 回	評議員會	3 回
	編輯會	13 回	工學聯合講演會	1 回
	研究部會	1 回	講演會	4 回

2 會員異動	名譽會員	維持會員	賛助會員	正會員	准會員	計
入會者	—	14	—	17	59	90
退會者	—	—	—	29	44	73
死亡者	—	—	—	6	4	10

死亡者氏名　正會員　岸　敬二郎君　蒲澤　備君　佐藤政次郎君　堀　悌三郎君　坂手力之助君　小野　保吉君

准會員　西垣　貞一君　千石　武雄君　大野政太郎君　久保　萬君

以上拾氏を喪ひたるは痛惜に堪えざる處なり、以上の諸氏の赴に接しては直ちに本會より弔詞を贈呈し弔意を表せり

3 會員總數

名譽會員	維持會員	賛助會員	正會員	准會員	計	前年同期比較
8	14	20	722（終身會員を含む）	571	1·335	7 增

備　考　昨年三月總會に於て改正したる本會定款第五條並第七條に據る維持會員の募集を開始せる處本年度中申込會員拾四名口數 23 口に達せり、會員名稱下の如し

八幡製鐵所殿	5 口	釜石鑛山株式會社殿	2 口
三菱製鐵株式會社殿	2 口	株式會社日本製鋼所殿	2 口
大倉鑛業株式會社殿	2 口	日本鋼管株式會社殿	1 口
日本特殊鋼合資會社殿	1 口	大同電氣製鋼所殿	1 口
東京鋼材株式會社殿	1 口	三菱造船株式會社殿	1 口
株式會社神戸製鋼所殿	1 口	東京製綱株式會社殿	1 口
南滿洲鐵道株式會社殿	2 口	株式會社住友製鋼所殿	1 口

4 **會誌及印刷物の刊行**　本會々誌「鐵と鋼」は第十三年第三號より第十四年第二號迄每月 1 回發行せり、其他『日本鐵鋼協會第三回講演大會講演大要』を刊行し會員一般に配布せり

5 **調査事項**

イ、商工省工業品規格統一調査會より本會に諮問せられたる鐵鋼分析方法規格案、並に可鍛鑄鐵品規格案、罐用繼目無鋼管寸法規格案、に就ては其都度關係方面の意見を徵し取纏め同會へ回答せり

ロ、工學會より依囑を受け編纂中の「明治工業史の中鐵鋼編」に就ては昭和二年八月完結し同會へ廻附せり

ハ、商工審議會より本會へ諮問の「產業行政改善に關する件」並に「諸改善方策に關する件」等に對しては本

會に於て評議員會を開き審議の上「製鐵鋼業振興に關する答申條項」及「鐵鋼行政の改善に關する希望條項を作成し同委員會に回答せり

二、本會に於て、本邦製鐵鋼業の振興を助長し實地作業に關する技術の進歩發達を促進する爲め昭和二年十一月八九の兩日に亘り第二回研究部會第一回製鋼部會を開催し次の議案に付き研究討議せり

議案 1號　平爐作業の能率を促進す可き構造上の改善方法
　　2號　平爐作業成績の向上を來す可き操業上の改善方法
　　3號　瓦斯發生爐型式並に燃料の撰擇及瓦斯品質良化に對する操業上の改善方法

6. 圖書寄書　本年度に於て寄贈を受けたる圖書部數合計 280 部なり

7. 講演會　本年度中本會に於て開催せる講演會演題次の如し

1)	前年度に於ける內外製鐵鋼業の概況（開會の辭）	會長 工學博士 鹽田泰介君
2)	本邦製鐵技術の趨勢	工學博士 俵國一君
3)	獨逸製鐵事業の復興事情	工學博士 今泉嘉一郎君
4)	ニツケルクローム鋼の代用特殊鋼に就て	工學博士 渡邊三郎君
5)	釜石鑛山に於ける磁氣探鑛に就て（昭和二年五月二十三日）	工學士 藤田義象君
6)	印度製鐵事業に就て（昭和二年六月二十四日）	工學士 足立泰雄君
7)	英國鐵鋼協會のストツクホルム大會に就て（昭和二年七月二十日）	工學士 西村小次郎君
8)	砂鐵鑛の狀態に就て	工學士 志村清次郎君
9)	鑄物砂の試驗法に就て	工學士 藤田守太郎君
10)	鑄鐵に及ぼす熔解溫度の影響	工學士 谷村熙君
11)	冶金用骸炭に就て	工學士 田中清治君
12)	八幡製鐵所の製銑作業に就て	工學士 平川良彥君
13)	現時吾國の製銑用骸炭	工學士 黑田泰造君
14)	鑄造作業と初期晶開始溫度との關係	工學士 堀切政康君
15)	白銑の黑鉛化に及ぼす種々の瓦斯の影響	工學士 澤村宏君
16)	固態滲炭劑に就て	工學士 石澤命知君
17)	鈑狀鑄鐵の冷硬法に於ける化學成分の影響に就て	工學士 淺田長平君
18)	鋼塊鑄型に就て	森寺一雄君
19)	八幡製鐵所製鋼操業に於ける熔銑の使用及熔鑛爐瓦斯、骸炭瓦斯利用に就て	工學士 久保田省三君
20)	鋼材の壓延作業に就て	工學士 岡崎泰祐君
21)	八幡製鐵所に於ける硅素鋼板の製造に就て	工學士 平世將一君
22)	鋼の腐蝕に及ぼす歪の影響に就て	理學博士 遠藤彥造君
23)	各種鋼材の高溫度に於ける機械的性質に就て	工學士 佐々川清君
24)	低滿俺鋼の靱さに就て	工學博士 濱住松二郎君
25)	鋼の疲勞に就て	理學博士 松下德次郎君
26)	鐵、炭素、クローム系合金の組織に就て	理學博士 村上武次郎君
27)	炭素鋼材の抗張力と製鋼方針	工學士 深田辨三君
28)	井口式被覆電氣熔接棒に就て	工學博士 井口庄之助君
29)	鈇刻と材力との關係に就て	理學士 蒔田宗次君
30)	各種耐銹鋼に關する研究	工學士 川上義弘君
31)	平行等溫面系の幾何量と圖式	工學博士 川崎舍恒三君
32)	錬鐵の衝擊抗力に就て	工學博士 吉川晴十君
33)	マルテンサイトの成生に關するX線的研究	理學博士 本多光太郎君 理學士 關戸信吉君

以上報告候也

昭和三年三月三十一日 社團法人日本鐵鋼協會 會長理事 工學博士 鹽田泰介

昭和貳年度收支決算報告

昭和參年參月參拾壹日 自昭和貳年參月 壹 日 至昭和參年貳月貳拾九日

支出之部

科目	金額
會誌印刷費	7,311.25
凸版製作並別刷印刷代	2,124.14
約束郵便料	309.91
會合費	250.31
圖書費	77.95
原稿料	186.60
事務費	1,455.56
報酬並に手當金	2,780.00
借室料	1,140.00
約束郵便追加擔保金	90.00
明治工業史編纂手當金	150.00
工學會會費	200.00
工學會聯合大會費負擔高	943.04
合計	17,018.76

收入之部

科目	金額
維持會員會費	2,200.00
正會員會費	5,601.50
准會員會費	3.324.80
入會金	96.00
廣告料	1.547.50
銀行並ニ振替利息	284.29
公債並ニ社債利子	3,494.05
寄附金	100.00
東電社債償還利金	81.00
北拓債券償還利金	120.00
雜收入	643.90
合計	17,493.04
差引收入大	474.28
財產ヘ繰入高	167.95
合計	642.23

財產目錄

昭和參年參月參拾壹日

摘要		昭和參年貳月貳拾九日現在	前年度ニ對スル增減比較 前年度現在	增減額
圖書		467.81	389.86	77.95
什器		925.12	925.12	
有價證券		43,797.00		
北海道拓殖銀行債券	¥ 3,970.00		9,850.00	×5,880.00
東京電燈株式會社々債	¥ 12,870.00		12,919.00	× 49.00
東京モスリン株式會社々債	¥ 6,867.00		6,867.00	
山陽中央水電株式會社々債	¥ 5,880.00			5,880.00
東京市電氣事業公債	¥ 4,300.00		4,300.00	
東京府農工債券	¥ 9,910.00		9,910.00	
擔保金		1,347.00		
會誌發行擔保	¥ 907.00		907.00	
約束郵便擔保	¥ 155.00		65.00	90.00
借室料敷金	¥ 285.00		285.00	
振替貯金		256.17		
基本金	¥ 10.00		10.00	
貯金	¥ 246.17		212.71	33.46

銀行預金		2,214.10		
特別當座並通知預金	£ 2,214 10		4,141.30	× 1,927.20
定期預金			3,000.00	× 3,000.00
信託預金		5,000.00		5,000.00
現金		12.56	12.72	× 17
別刷代未收入金		417.19		417.19
		54,436.95	53,794.12	542.23

備考　×印は減少額、本年度財産增加額六百四拾貳圓貳拾參錢也

外に　萬國工業會議費金預り高、六百七拾七圓九拾錢也　前期預り金七拾圓を含む

工學會聯合大會記錄代預り高、壹百參拾圓也

合計　金八百七圓九拾錢也

以上の金額八百七圓九拾錢也は本會に於て預り金に付貳月二十九日現在の銀行預金殘高より控除す

昭和參年度收支豫算

自昭和參年參月壹日
至昭和四年貳月末日

支出之部

科目	金額
會誌印刷費	7,800.00
凸判製作並別刷印刷代	1,980.00
原稿料	200.00
約束郵便料	325.00
事務費	1,300.00
報酬並に手當金	2,730.00
借室料	1,140.00
會合費	430.00
什器費	100.00
圖書費	100.00
工學會々費	200.00
講演大會費	1,000.00
豫備費	700.00
合計	18,005.00

收入之部

科目	金額
維持會員會費	2,400.00
正會員會費	6,120.00
准會員會費	3,600.00
廣告料	1,500.00
銀行並に振替利息	285.00
公債並社債利子	3,400.00
入會金	100.00
寄附金	—
雜收入	600.00
合計	18,005.00

上記之通り報告候也　昭和參年參月參拾壹日　社團法人　日本鐵鋼協會々長理事　鹽田泰介

本會々長理事並に評議員任期滿了者半數改選投票開票　開票委員として、松下德二郎君、川上義弘君を推薦し開票の結果次之通り報告す

會長　139票　服部漸君

理事　139票　服部漸君　141票　俵國一君　140票　河村驍君
140票　種子田右八郎君　140票　渡邊三郎君

評議員　141票　伊藤乙次郎君　140票　井上克巳君　140票　原田鎭治君
141票　濱田彪君　140票　林幾太郎君　140票　西村小次郎君
140票　大塚榮吉君　142票　加藤榮君　141票　門野重九郎君
141票　川上義弘君　141票　川部孫四郎君　140票　横堀治三郎君
142票　田宮嘉右衞門君　140票　中井勵作君　140票　永田五郎君

140 票 永留小太郎君	140 票 梅野實君	140 票 梅根常三郎君
140 票 久保田省三君	139 票 工藤治人君	140 票 黑田泰造君
139 票 牧田環君	142 票 伍堂卓雄君	141 票 秋山正八君
142 票 齋藤大吉君	140 票 寒川恒貞君	140 票 吉川晴十君
141 票 湯川寛吉君	141 票 水谷叔彦君	141 票 杉村伊兵衛君

(次點者 1 票の得票者あるも省略す)

以上之通りにして本會第十三回通常總會は好都合に進行し出席者一同拍手を以て滿足を表し終了せり次に直ちに例に依り講演會に移り次の演題に依り開會せり

講演會 場所 前同 開會時間 午後三時

會長鹽田泰介君開會を告げ講演者先づ鵜瀞新五君を紹介す

演題 鎔鑛爐に關する最近の傾向に就て 八幡製鐵所銑鐵部長 工學士 鵜瀞 新五君

同講演の要項は 1 生產量の增大 2 爐內容積と內形 3 送風及送風機 4 羽口 5 熱風爐 6 瓦斯淸淨及瓦斯溜 7 裝入原料の精選 8 粉鑛爐、粉鑛處理 9 骸炭に關して 10 捲揚及裝入裝置 11 鑛滓の利用 12 米獨技術の接近 13 鎔鑛爐の將來 以上に就て同氏は今回歐米の斯業親しく視察されたる新歸朝談にして多趣なりき

次に河村博士を紹介す

演題 製鐵技術進步の趨勢 三菱製鐵株式會社取締役 工學博士 河村 驍君

本講演は歐米と對照し本邦各工場の最新の進步業績及改良設備を一一洩らす處なく指摘され其れに一一詳細なる御說明を附されたるは座ながらにして本邦斯業全工場の狀況を窺ひ得て最も多趣の講演なりき

次に本多博士を紹介す

演題 最近鐵鋼科學研究の趨勢 東北帝國大學金屬材料研究所長 理學博士 本多光太郎君

本講演は本科學文獻數を各國對照統計圖に依つて近來本邦と雖も歐米に劣らざる事を證明され尙ほ歐米對本邦の進步發達を一一研究者及其業績に就て詳細說明を附され本邦斯業者並びに斯道科學者の意を强ふるを得て最も多趣なる講演なりき

以上通りにして講演會を終り直ちに懇親會に移れり

懇親會 同協會館二階食堂に於て午後 6 時 40 分開會

出席者 鹽田泰介君 服部 漸君 河村 驍君 渡邊三郎君 今泉嘉一郎君 一色虎兒君 盧成章君 濱田彪君 林幾太郎君 西野惠之助君 本多光太郎君 大塚榮吉君 橫堀治三郎君 室井嘉治馬君 鵜瀞新五君 梅野 實君 宇和川武夫君 松下長久君 松下德次郎君 江藤捨三君 荒木 宏君 白石元治郎君 志村淸次郎君 杉村伊兵衛君

本懇親會は本會新舊會長の挨拶其他本會の最も有意義なる會にして大盛況を呈せり次回に於て此會合の詳細を報告すべし